



90<sup>th</sup> Anniversary  
おかげさまで創業  
90周年

# 第46期 定時株主総会 参考資料



エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役会長CEO 西川 浩司

2017年6月24日

- 1 | 連結経営指標等の推移
- 2 | 当社経営指標等の推移
- 3 | 業績推移 —売上高・経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益—
- 4 | 業績推移 —純資産/総資産・1株当たり純資産額・1株当たり当期純利益—
- 5 | セグメント別売上高の状況
- 6 | 連結財務諸表
- 7 | 財政状態の分析
- 8 | 経営成績の分析
- 9 | 会社概要
- 10 | 沿革
- 11 | 3つの事業部門
- 12 | 国内事業拠点
- 13 | 倍増計画 ( )  
倍増計画 ( )  
倍増計画 ( )
- 14 | 新たな取り組み

FACTORY AUTOMATION



PRODUCTION GOODS

# 1 連結経営指標等の推移

回次		第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月		2013年3月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月
売上高	(千円)	—	—	—	6,176,962	8,088,753
経常利益	(千円)	—	—	—	565,737	833,708
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	—	—	—	363,630	551,582
包括利益	(千円)	—	—	—	284,980	619,504
純資産額	(千円)	—	—	—	3,663,026	4,157,147
総資産額	(千円)	—	—	—	5,690,837	7,214,958
1株当たり純資産額	(円)	—	—	—	672.26	762.95
1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	66.73	101.23
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	—	—	—	64.4	57.6
自己資本利益率	(%)	—	—	—	10.2	14.1
株価収益率	(倍)	—	—	—	10.3	18.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	—	240,758	278,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	—	141,747	203,015
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	—	—	—	108,282	25,079
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	—	—	—	252,781	308,801
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	—〔—〕	—〔—〕	—〔—〕	180〔30〕	190〔46〕

- (注) 1. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。  
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 4. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

## 2 当社経営指標等の推移

回 次		第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月		2013年 3月	2014年 3月	2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月
売上高	(千円)	5,363,510	5,456,494	6,350,253	6,194,894	8,081,448
経常利益	(千円)	200,352	344,766	455,693	605,741	880,864
当期純利益	(千円)	120,566	205,628	296,406	363,879	598,595
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	156,100	156,100	156,100	156,100	156,100
発行済株式総数	(株)	55,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
純資産額	(千円)	3,041,855	3,268,205	3,487,529	3,666,953	4,194,507
総資産額	(千円)	5,242,130	5,271,187	5,431,162	5,691,867	7,248,550
1株当たり純資産額	(円)	558.25	599.79	640.05	672.98	769.81
1株当たり配当額	(円)	900	14	20	23	30
1株当たり当期純利益	(円)	22.12	37.73	54.39	66.78	109.85
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	58.0	62.0	64.2	64.4	57.9
自己資本利益率	(%)	4.0	6.5	8.8	10.2	15.2
株価収益率	(倍)	12.5	8.3	11.3	10.2	17.4
配当性向	(%)	40.7	37.1	36.8	34.4	27.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	253,458	27,574	172,486	—	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	67,867	223,565	262,148	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	65,078	48,669	76,333	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	672,900	428,239	262,243	—	—
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	151〔14〕	158〔21〕	161〔20〕	175〔30〕	183〔46〕

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため記載しておりません。  
3. 2013年4月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。第42期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
5. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
6. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、第45期以降の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

# 3 業績推移 — 売上高・経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益 —

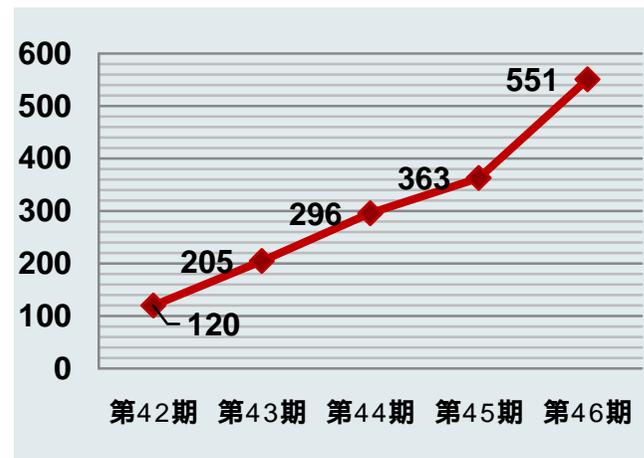
## 売上高



## 経常利益



## 当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)



(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

# 4 業績推移 —純資産/総資産・1株当たり純資産額・1株当たり当期純利益—

純資産額/総資産額 (注)



## 財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は、前年度末と比べ1,524百万円増加し、7,214百万円となり、負債合計は、前年度末と比べ1,030百万円増加し、3,057百万円となりました。正味運転資本(流動資産から流動負債を控除した金額)は1,968百万円であり、流動比率は172.8%であります。なお、当連結会計年度末の純資産合計は、前年度末と比べ494百万円増加し、4,157百万円となりました。自己資本比率は57.6%となっております。

(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

1株当たり純資産額 (注)



1株当たり当期純利益 (注)



## 5 セグメント別売上高の状況

### アルファフレーム部門

アルファフレーム部門におきましては、『カクチャ™』及び『マーキングシステム™』を活用し、アルミニウム合金製構造材『アルファフレーム』の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。顧客の分野といたしましてはFPD製造設備向けの需要が伸長し、大口継続顧客からの大幅な受注増に加え、その関連顧客からの受注も増加いたしました。また半導体製造設備向けの需要も同様に増加いたしました。その他の一般産業向け設備に関する受注案件は、設計サポートサービス『カクチャ™』及び『マーキングシステム™』に係わる社内的人员拡充及び設備拡張を図ったことによって、受注増加に繋がりました。この結果、当部門の売上高は4,865百万円（前年同期比174.3%）となりました。

### 装置部門

装置部門におきましては、引き続き当社グループの技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。自動車部品製造企業向け設備といたしましては、継続的に洗浄装置及び検査装置を中心に展開し、前連結会計年度と同様に安定した受注を確保することができました。また、FPD業界向けクリーンブース案件及び特殊仕様の構造物案件についても、当初予測を上回って推移いたしました。この結果、当部門の売上高は2,133百万円（前年同期比87.1%）となりました。

### 商事部門

商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係は、顧客からの需要が一段落したこと等から、期初よりやや低迷いたしましたが、第4四半期以降は持ち直し復調傾向となりました。機械設備関係の受注につきましては、期初より順調に推移し、また、工具・ツール関係におきましても受注が伸長しました。これらに加え、設備稼働管理システムなど新たな分野での提案型営業活動推進によって、受注増加に繋がりました。この結果、当部門の売上高は1,090百万円（前年同期比116.5%）となりました。

# 6 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(2017年3月31日現在)

科目	金額(千円)
<b>資産の部</b>	
流動資産	4,671,571
固定資産	2,543,387
有形固定資産	1,814,303
無形固定資産	58,093
投資その他の資産	670,990
資産合計	7,214,958
<b>負債の部</b>	
流動負債	2,703,367
固定負債	354,444
負債合計	3,057,811
<b>純資産の部</b>	
株主資本	4,049,356
資本金	156,100
資本剰余金	145,608
利益剰余金	3,782,177
自己株式	34,529
その他の包括利益累計額	107,312
その他有価証券評価差額金	96,538
為替換算調整勘定	10,773
非支配株主持分	478
純資産合計	4,157,147
負債及び純資産合計	7,214,958

## 連結損益計算書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

科目	金額(千円)
売上高	8,088,753
売上原価	6,073,175
売上総利益	2,015,578
販売費及び一般管理費	1,182,731
営業利益	832,847
営業外収益	13,596
営業外費用	12,735
経常利益	833,708
税金等調整前当期純利益	833,708
法人税等	282,177
当期純利益	551,530
非支配株主に帰属する 当期純損失	51
親会社株主に帰属する 当期純利益	551,582

## 7 財政状態の分析〔連結貸借対照表（2017年3月31日現在）〕

流動資産	当連結会計年度末における流動資産の残高は、前年度末と比べ1,069百万円増加し、4,671百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が634百万円、電子記録債権が176百万円、仕掛品が126百万円、それぞれ増加したことなどによります。
固定資産	当連結会計年度末における固定資産の残高は、前年度末と比べ454百万円増加し、2,543百万円となりました。これは主に、土地が78百万円、建設仮勘定が280百万円、投資有価証券が86百万円、それぞれ増加したことなどによります。
流動負債	当連結会計年度末における流動負債の残高は、前年度末と比べ924百万円増加し、2,703百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が64百万円、電子記録債務が267百万円、設備関係手形が270百万円、未払法人税等が84百万円、それぞれ増加したことなどによります。
固定負債	当連結会計年度末における固定負債の残高は、前年度末と比べ105百万円増加し、354百万円となりました。これは主に、長期借入金が62百万円、リース債務が23百万円、退職給付に係る負債が19百万円、それぞれ増加したことなどによります。
純資産	当連結会計年度末における純資産は、前年度末と比べ494百万円増加し、4,157百万円となりました。これは主に、利益剰余金が426百万円、その他有価証券評価差額金が54百万円、それぞれ増加したことなどによります。

## 8 経営成績の分析〔連結損益計算書（2016年4月1日から2017年3月31日まで）〕

<p>売 上 高</p>	<p>当連結会計年度は、アルファフレーム部門においては、『カクチャ™』及び『マーキングシステム™』を活用し、アルミニウム合金製構造材『アルファフレーム』の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。</p> <p>顧客の分野といたしましては、FPD製造設備向けの需要が伸長し、大口継続顧客からの大幅な受注増に加え、その関連顧客からの受注も増加いたしました。また半導体製造設備向けの需要も同様に増加いたしました。</p> <p>その他の一般産業向け設備に関する受注案件は、設計サポートサービス『カクチャ™』及び『マーキングシステム™』に係わる社内の人員拡充及び設備拡張を図ったことによって、受注増加に繋がりました。</p> <p>装置部門においては、引き続き当社グループの技術力を活かした質の高いIFA装置の提案活動を推進いたしました。</p> <p>自動車部品製造企業向け設備といたしましては、継続的に洗浄装置及び検査装置を中心に展開し、前連結会計年度と同様に安定した受注を確保することができました。</p> <p>また、FPD業界向けクリーンブース案件及び特殊仕様の構造物案件についても、当初予測を上回って推移いたしました。</p> <p>商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係は、顧客からの需要が一段落したこと等から、期初よりやや低迷いたしました。第4四半期以降は持ち直し復調傾向となりました。</p> <p>機械設備関係の受注につきましては、期初より順調に推移し、また、工具・ツール関係におきましても受注が伸長しました。これらに加え、設備稼働管理システムなど新たな分野での提案型営業活動推進によって、受注増加に繋がりました。</p> <p>これらの結果、売上高は8,088百万円（前期比31.0%増）となりました。</p>
<p>売 上 総 利 益</p>	<p>当連結会計年度は、受注増に対し、『カクチャ™』及び『マーキングシステム™』を活用し、効率的な生産体制を継続できたことにより、売上総利益は2,015百万円（前期比32.4%増）となりました。</p>
<p>販売費及び一般管理費</p>	<p>販売費及び一般管理費につきましては、継続的かつ効果的な人的投資及び販促・広告活動を推進した結果、1,182百万円（前期比23.4%増）となりました。</p>
<p>営 業 利 益 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益</p>	<p>当連結会計年度は、売上高及び売上総利益の増加に伴い、販売費及び一般管理の増加はあったものの、営業利益が832百万円（前期比47.8%増）、経常利益が833百万円（前期比47.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益が551百万円（前期比51.7%増）と大幅な増益となりました。</p>

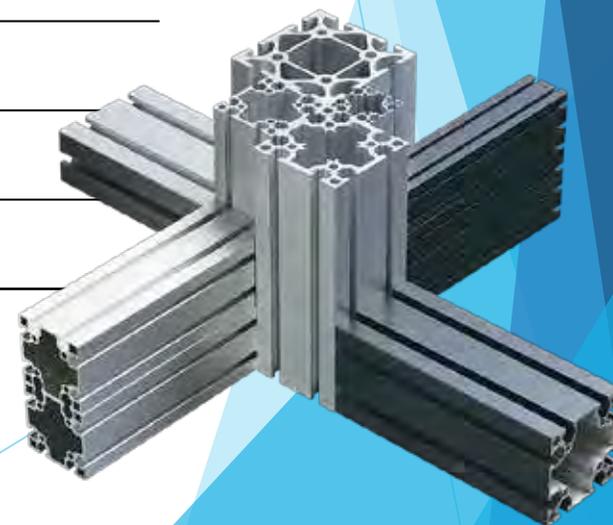
# 9 会社概要



エヌアイシ・オートテック株式会社

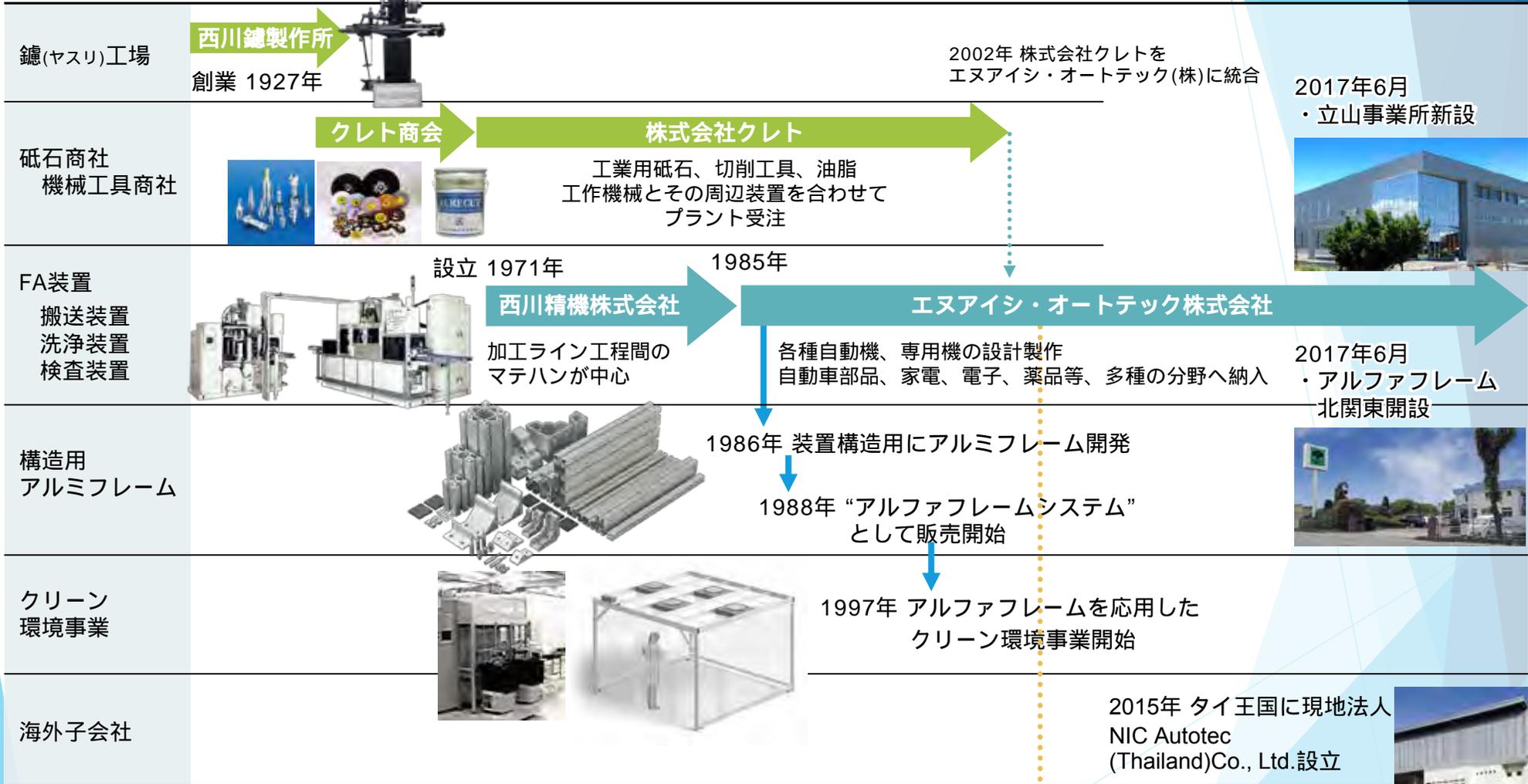


創 業	1927年4月（昭和2年）
設 立	1971年 5月17日
代 表 者	代表取締役会長CEO 西川 浩司
本 社 所 在 地	富山県富山市清水元町7番8号
東 京 本 社	東京都江東区有明三丁目7番26号有明フロンティアビルB棟11階
資 本 金	156,100千円（2017年3月31日現在）
従 業 員 数	190名（連結：2017年3月31日現在）
平 均 年 齢	40.2歳（単独：2017年3月31日現在）



# 10 | 沿 革

1927      1960      1970      1980      1990      2000      2010      2015      2016      2017      (年)



2017年6月  
・立山事業所新設



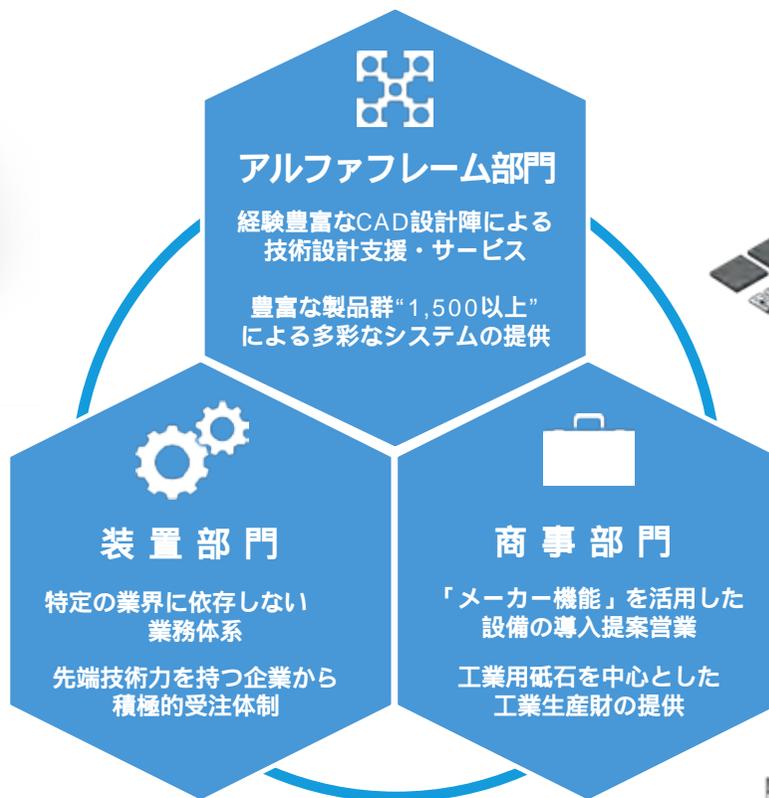
2017年6月  
・アルファフレーム  
北関東開設



2006年アルファフレーム、装置、商事の3事業を核として、  
JASDAQ(現:東京証券取引所)に上場

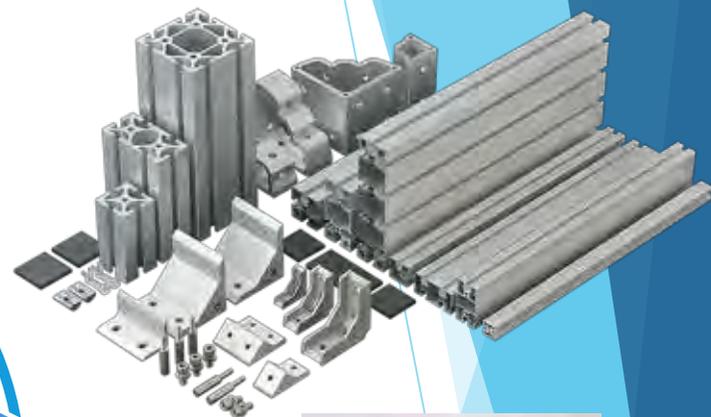
# 11 | 3つの事業部門

アルミ製構造部材から高度な自動化装置、  
さらにはクリーンルームの製造・販売までの一貫体制



アルファフレーム + 装置 + 商事

高付加価値技術



# 12 国内事業拠点 (9拠点)

## 富山本社(登記上本社)

富山県富山市  
清水元町7-8



## 流杉工場

富山県富山市  
流杉255



## 立山工場

富山県中新川郡  
立山町塚越398-176



## 立山事業所

富山県中新川郡  
立山町前沢2178-1



## アルファフレーム九州

福岡県大牟田市  
四箇新町1-2



## アルファフレーム関西

大阪府東大阪市  
本庄西2-4-29



## アルファフレーム北関東

埼玉県児玉郡  
神川町元阿保309



## 東京本社(登記上東京支店)

東京都江東区有明3-7-26  
有明フロンティアビルB棟11階



## 愛知事業所

愛知県名古屋市  
緑区鳴海町母呂後185



# 13 倍増計画（ ）

当社は、2006年6月に株式を上場後、立山工場敷地内において開発センター「I棟」及び生産棟「C棟」の二棟を増設してまいりました。

更なる業容拡大を目指すべく当社グループは、2016年度から2020年度までの5カ年を期間とする中長期経営計画として、その最終連結会計年度における売上高・事業規模等を倍増する計画を掲げました。この計画に基づき当社グループでは、2016年度を『倍増計画元年』と位置付け、当社が株式を上場して以来、最大となる大型設備投資を計画いたしました。

## 第1弾 海外子会社への増資を実施

今後、大きな成長が見込まれるASEAN地域での生産設備等の「自動化の波」にお応えすべく、当社の連結子会社であるNIC Autotec(Thailand)Co.,Ltd.に対し、機械設備拡充及び財務基盤強化を図ることを目的に、2016年8月に増資を実施いたしました。

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| (1) 増資額          | : 60,000,000タイバーツ |
| (2) 払込日          | : 2016年8月実施       |
| (3) 割当先          | : 当社              |
| (4) 増資後の発行済株式の総数 | : 70,000株         |
| (5) 増資後の資本金の額    | : 70,000,000タイバーツ |
| (6) 増資後の当社出資比率   | : 99.857%         |



# 13 倍增計画（ ）

## 第2弾 立山事業所の新設

更なる事業拡大に向けて生産体制の強化を図るため、開発・生産効率を大幅に高めることを計画し、F A装置製作のための新工場を建設いたしました。2016年8月に工場用地を取得し、同年10月より建設に着工、2017年6月に完成いたしました。

本事業所は、F A装置等の設計・製作を主体としてスタートいたしますが、近い将来には、クリーン装置（クリーンブース、クリーンベンチ等のクリーン関連機器）やロボット関連機器・装置等の分野にも対応できるよう設備を整え、装置事業の重要な拠点とする予定であります。

- (1) 所在地 : 富山県中新川郡立山町前沢2178-1
- (2) 設備投資額 : 8.5億円（土地、建物及び建物付属設備、機械設備等）
- (3) 敷地面積 : 6,388㎡（1,932坪）
- (4) 延床面積 : 2,742㎡（829坪）
- (5) 構造 : 鉄骨造2階建



# 13 倍増計画（ ）

## 第3弾 北関東出荷センターを開設

当社の主力製品である「アルファフレーム®システム」の拡販を図るため、出荷センター（名称：アルファフレーム北関東）を決定し、2017年6月に開設いたしました。

本出荷センターでは、関東地区を中心とした東日本のお客様へのサービス向上を図ることのみならず、海外のお客様からのニーズにも迅速にお応えできる体制構築の一環として、海上輸送、航空輸送等の利便性などを鑑みて関東エリアに開設することといたしました。

- (1) 名称：アルファフレーム北関東
- (2) 所在地：埼玉県児玉郡神川町元阿保309
- (3) 開設年月：2017年6月



# 14 | 新たな取り組み

## 人型ロボットを活用したシステムインテグレーション

生産工場の自動化はこれまで多くの方策が実施され、その延長線上での改善では大きな効果を見込むことができないところまで来ております。このような状況のもと、しくみのイノベーションとしてIoT（モノのインターネット/Internet of Things）などの動きが出ておりますが、物理的なイノベーションとしては、人と自動化装置の間の柵を無くした生産システムが注目され始めております。今までの機械・装置では、人が怪我をしないよう様々な安全対策が施されてきましたが、安全に対する考え方のパラダイムシフトを行うことによって、全く新しい生産システムが生まれる可能性があります。これを実現するためには、今までの常識を捨て、新しい常識を作り出す必要があります。



また、柵を無くして人と機械が協働すると言っても、従来のロボットの出力を人に怪我を負わせないレベルまで下げる程度の方法から人型の双腕ロボット運用まで、非常に大きな幅があります。

当社はロボットメーカーではありません。しかし、“システムインテグレーター”です。この新しい常識を創出するため、当社はその環境づくりとして、難易度の高い人型の双腕ロボットを自社工場に導入いたしました。

生産効率、安全規格といった各問題から、現時点でその市場規模を予測することは大変困難な状況ではありますが、このしくみが実現すれば、IoTと結びつくことでさらに大きな効果をもたらすものになるでしょう。

人とロボットと一緒に働く近未来的な生産現場（次世代工場）の環境づくりとして、制御プログラムの構築や、ロボットの作業環境として必要な周辺機器・治具、およびこれらの目的に沿った新しいIFA装置やアルファフレームシステムを活用したユニット化の開発をめざしてまいります。

# Thank You!

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本資料に対するお問合せは、以下へお願い申し上げます。

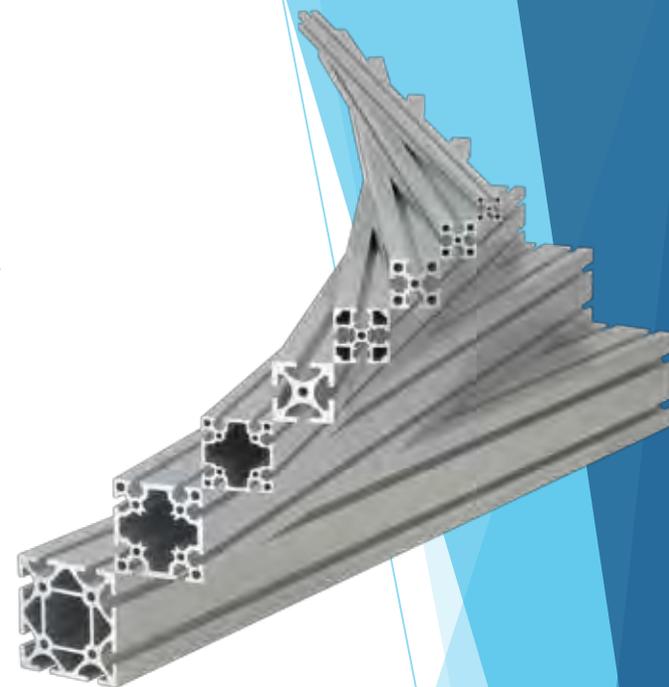
<エヌアイシ・オートテック株式会社 管理部管理グループ>

TEL : 076-425-0738

FAX : 076-422-2712

Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp)

URL : <http://www.nic-inc.co.jp/>



## エヌアイシ・オートテック株式会社

富山本社 / 〒930-0034 富山県富山市清水元町7-8

TEL : 076-425-0738

東京本社 / 〒135-0063 東京都江東区有明3-7-26有明フロンティアビルB棟11F

TEL : 03-5530-8060

**ご注意 著作権** © NIC AUTOTEC, INC .

**WARNING** : All Rights Reserved . Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

本資料を権利者の許諾なく無断複製、改変、頒布、翻訳などを使用することは、著作権上、禁じられています。

**産業財産権** NIC AUTOTEC, INC . ALFA CLEAN BOOTH & SYSTEM, ALFA FRAME SYSTEMの主要な構成部品は特許、実用新案、意匠権など産業財産権により保護されております。